

## 文化庁 第二期文化芸術推進基本計画の検討に際しての意見

提出者： 一般社団法人和食文化国民会議

対象： 文化芸術推進基本計画（第2期）に向けて P3

## 【生活文化の振興及び保護について】

○食文化については、地域や国民一人ひとりによる食文化の継承の取組の促進、国や地方自治体による食文化振興施策の推進を図ることが必要である。

意見： 少子高齢化・人口減少が進む日本の構造、新型コロナウイルス感染症の長期化・常在化が懸念される環境下、文化芸術の振興のために持続的な努力が必要です。生活文化としての食文化、特にユネスコに無形文化遺産登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」については、第一期基本計画においても、具体的に機運醸成事業、インバウンド動向調査事業等で取り上げられ、海外への発信を含む普及活動が進展しています。

一方、時間の経過により、和食文化を伝承する側の人達の高年齢化は止められず、保護継承の道筋を急ぎ整える必要があります。

最も難しく、それ故に重要なのは家庭での伝承です。家庭で作られる日常の和食、家庭で行われる年中行事とそれに関わる行事食をも含む、広い意味での「和食」の文化財化を検討する枠組みを期待いたします。

意見： グローバル化、デジタル化の中で、インターネット・SNSでの発信においては、匿名の情報も多く、どれが正確な情報かを見極める事は容易ではありません。文化庁を始めとする公的機関により、「和食」に関して、総合的に信頼性の高い情報が得られ、安心して意見交換ができる情報プラットフォームが整えられることを合わせて希望します。

以上

## 添付資料)

「令和4年度会長挨拶」： 令和4年度の和食文化国民会議の活動方針

「和食」とSDGs コメント： 「和食」とSDGsに関わる発信

(別紙) ミッション・中期ビジョン： 2025年に向けた中期活動方針

## 一般社団法人和食文化国民会議 資料 「令和4年度会長挨拶」

2年を超えるコロナ禍は、未だ完全に収束していません。その間に、罹患された方、事業で影響を被った方々、心よりお見舞い申し上げます。

2022年度もコロナ禍の渦中であって活動を進めていかなければなりません。また、ロシアのウクライナ侵攻により国際的な政情不安、経済問題が起こっています。このような状況ではありますが、和食会議の使命である「和食」の保護・継承の活動は、休まず一層強力に進めていかなければなりません。

2023年は「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されて10周年となります。更に2025年は和食会議の団体設立10周年にあたり、この年には大阪・関西万国博覧会が開催されます。その時期を目標に定めて、この度「中期ビジョンー2025年に向けてー」を策定しました。2022年度もその方針に沿って活動してまいります。

次世代への「和食」の継承では、昨年度13,318校の参加があった「だしで味わう和食の日」の企画を、最終目標である20,000校に向け、着実に実施いたします。出前授業も従来の会員講師に加え、日本料理の料理人を対象とした「認定講師制度」を設け、希望校とのマッチングを行います。その他、夏休みには子ども達を対象とした新たなイベント企画も予定しています。

「和食と健康」をはじめとするシンポジウムや講演会は、リアル、オンラインを柔軟に選択または併用し、会場での参加者交流を実現するとともに、全国に配信します。その他にYouTube等を介して和食会議役員の講演や「和食」に関する映像作品の配信も積極的におこないます。会員の皆様は、ご自身でお楽しみいただくのと合わせて、SNS等によりお知り合いの方々に情報を広く伝えていただきたいと思います。

11月24日「和食の日」、正月や五節供等の年中行事は、「和食」の普及活動において大切な機会です。ポスター配布や写真投稿等のキャンペーンを実施し、また会員や関係省庁、諸団体と連携し、活動の輪を広げてまいります。

昨年度、和食会議では「和食とSDGs」検討委員会を設置し、取り組みの検討を行いました。その結果は、本年度以降の各事業に反映してまいります。会員の皆様には、趣旨をご理解いただき「和食とSDGs」に関する企画に参加いただきながら、理解を深め、自分自身の課題としてそれぞれの活動に繋げていただきたいと思います。一緒にできることを見つけ、取り組んで参りましょう。

令和4年6月  
一般社団法人和食文化国民会議  
代表理事会長 伏木 亨

## 「和食」とSDGs に関する会長コメント

2017年に共有した和食会議の「和食の心とかたち」においても“和食は、地域の新鮮で多彩な食材を大切にし、四季おりおりの自然の恵みに対する感謝の心とこれを大切にする精神に支えられ、地域と家族をつなぐ日本人の生活文化です。”と表しています。これはSDGs（持続可能な開発目標）が目指すところと一致しています。地球の温暖化、それに伴う気候変動は和食を支える農業、水産業にも大きな影響を与えます。SDGsにおける17のゴールは相互に関わっていますが、特に食と関係の深い飢餓や健康に関する目標、資源・廃棄物に関する目標、気候・環境に関する目標は重要です。今回、和食会議はメッセージ“「和食」でSDGsを！”をまとめました。良く理解し、実践し、発信してください。

### 「和食」でSDGsを！

日本の自然や気候風土の中で育まれてきた「和食」は、自然を尊ぶという日本人の気質に基づいた食に関する習わしです。

米を主食とし、だしのうま味をベースに、野菜や魚介が中心の一汁三菜を基本とした和食献立は、脂質の摂取が少なく、多品目の食材を使用するため栄養面でバランスが良いと言われています。また、この食事は、肉類を多く食べる国々の食事に比べて、地球環境に与える負担が小さいという報告もあります。

食べ物を大切に考え、素材を使い尽くす和食の工夫は、食品ロスを低減させます。

「和食」は、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方に適った食文化です。和食会議は、相互に関連する各目標を認識し、「和食」がSDGs達成に貢献できることを、いろいろな場所・方法で発信してまいります。

子どもや孫、その先も豊かな食を享受できるよう、我慢することではなく、「和食」を楽しむことでSDGsを達成しましょう。

令和4年6月  
一般社団法人和食文化国民会議

## 和食会議ミッション・中期ビジョン（2025年に向けて）

### ■和食会議のミッション（定款）

ユネスコに無形文化遺産として登録された「和食；日本人の伝統的な食生活－正月を例として－」（以下「和食」と略記）を適切に保護し、その継承を推進すること。

### ■中期ビジョン（2025年のあるべき姿：「伝えよう、和食文化を。」の実現・達成）

#### 1)【価値の共有】

生活者に「和食」の魅力ある情報を継続的に発信し、共有する。

#### 2)【価値の連鎖】

「和食」の保護・継承に賛同する個人や団体、企業との連携の輪を広げていく。

#### 3)【新しい価値の“気づきと創造”】

家庭生活での「和食」の実践、定着を図り、持続可能な社会の実現に貢献する。

### ■活動方針

#### 1)「和食」の次世代への継承

子ども達、若者、それらの親世代や教育関係者に向け「和食」の食育活動を推進する。

#### 2) 日常の家庭生活への「和食」の再定着促進

「和食」と関係の深い年中行事やしきたり等の再認識及び実践を国民に促すことで、「和食」の家庭生活への再定着を促進する。

#### 3)「和食」の魅力や価値、「和食」の保護・継承の大切さの発信

講演会やイベント、オンライン配信等、対象に適した方法を選択し積極的に発信する。

#### 4)「和食」の国境を越えた価値共有

会員、関係省庁と連携し、世界に向けて「和食」の魅力や価値を発信し、併せて世界の多様な食文化を尊重し交流をはかる。

#### 5)「和食」を保護・継承する個人、団体、企業の輪の拡大

ビジョン実現のため組織を継続的に拡大し安定的に運営する。また、志を同じくする会員以外の個人、団体、企業と継続的に交流する。

以上